

令和6年度4年生
昨年度の授業改善プランについての成果と課題

国語→目的を明確にすることで、主体性は維持できている。具体的な話型や文章の見本を提示することで、安心感をもって取り組める児童が増えた。しかし、話の中心やキーワードをおさえて聞くことに課題が残る。宿題は取り組んでいるが、漢字の定着については、個人差が大きい。

社会→導入を工夫し、児童の興味を引くことができるように教員の経験や児童の経験したことのある事例を多く用いて学習に臨んだことで学習への意欲が高まった。しかし、全体を通して資料の読み取り過程で必要な情報を選別する力が弱い。また、東西南北、地図記号等の基礎基本の学習が身につけていない為、一層丁寧に指導を行う必要がある。

算数→基礎基本となる知識の定着を図るため、習熟度別学習でも丁寧な復習やいつ学習したことなのかを振り返りながら学習に取り組んできた。少しずつ計算力などの定着も見られるようになってきているが、既習を自分で振り返り、ほかの学習で生かしたりほかの問題に活用したりすることにはまだまだ課題が見られ今回の結果にも表れていた。今後も既習と結び付けながら、学習を進めていくことを大切にしたいと考える。

理科→覚えることや実験などの関心は高い。しかし、実験で検証したいことと身近な事象や課題が自分ごととして捉えられていない。身近な生活や出来事から考えられる予想が立てられれば、検証したことから分かったことを自分なりに表現することができると思う。

I 大田区学習効果測定の結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	≡			≡			△			≡		
観点別	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	△	≡	≡	▼
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									

1 教科全体

国語科・社会科・理科の正答率は目標値と同程度、算数科の正答率は目標値を上回った。どの観点においても、7%上回る結果となった。

2 観点別

4教科ともに知識・技能、思考・判断・表現における正答率は、目標値と同程度で安定している。しかし、理科の主体的に学習に取り組む態度の正答率は、目標値を下回っている。

また、算数科においてはどの学習領域に関しても、目標値を上回っており、基礎力・活用力ともに良好で安定した結果となった。

II 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

国語科は、どの観点においても目標値が同程度という結果となった。しかし、領域別にみると「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、目標値より3%下回っている。これは、言葉の意味を正しく捉えていないことやローマ字表記が定着していないことがあげられる。また、説明や会話の要点をおさえ、条件に合わせた意見を書くことに課題が残った。言語に関しては、言語に関心をもたせ慣用句やことわざなどの情報量を増やすため、音読を通して習慣化する指導を重ねていく。書くことにおいては、書いたままにせずに見直すことや、他者に読んでもらうことを通して、質問の意図や条件に合わせて書く力を育てていきたい。

【社会】

社会科は、どの観点においても目標値が同程度という結果となった。しかし、知識・技能の正答率は他の観点よりも低い結果となった。基礎・基本となる学習内容が身に付くように指導方法を工夫していく必要がある。身近な生活の中で使われる言葉や記号は、社会の中でなぜ大事なのか理由を考えさせたり正しく理解させたりする必要がある。基礎・基本となる学習内容が身に付くことにより、その他の観点も関連付けられ、さらに高まることが考えられる。また、「資料の読み取り」に課題が残った。資料を読み取る際には、何を問われているかを正しく理解したうえで、資料のどこに着目すればよいかを判断し、必要なことを読み取っていくことを繰り返し指導していく。

【算数】

算数科はすべての観点で目標値を上回る、もしくは、同程度の結果となっている。領域別にみると、「データの活用」についての正答率が目標値より10%程度高くなっていることが分かる。4領域の中では、数と計算が75%と一番低い。分数に関する問題に誤答が多くみられていることから、さらに学習を積む必要があると感じる。分数の表し方の基本となるところから、数直線上での数の読み取りなど、繰り返し問題に触れ、基礎となる学習内容の定着を図っていきたい。

【理科】

理科は、主体的に学習に取り組む態度が目標値から7%下回る結果となった。知識・技能は定着しているが、それをもって事象や物体の特徴などから判断することに課題が残った。知識と事象や物体の特徴などを関連付け、予想や実験・観察を通して得られた結果から、「もしも〇〇だったら？」または実験や観察が失敗した原因を考えさせることで、4年生なりに考察をすることができる。知識を活用する場面を増やすことで、判断力の定着を図っていきたい。

2 音楽・図工・家庭・体育・外国語

	児童の実態	おおむね良好:○ 改善が必要:△	授業改善プラン
音楽	●知識・技能 ・多くの児童が歌唱や器楽のコツを理解しているが、裏声で歌うことが難しい児童が数名いる。	△	・常時活動で歌唱や音を重ねる技能が身につくよう継続的に取り組む。 ・常に掲示しながら繰り返し指導して、既習事項を
	・学習した音楽の要素、仕組み、記号を生かして表現できる児童と、努力を要する児童がいる。	△	
	●思考・判断・表現 ・学習事項をもとに工夫を凝らして音楽をつくったり表現したりできる児童と、工夫を考えることに努力を要する児童がいる。	△	

	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的に学習に取り組む態度 ・多くの児童がリコーダーや歌唱の練習に積極的に取り組んでいた。 ・学習の見通しをもち、自身の学習結果を振り返り次の学習に生かすことができる児童と、努力を要する児童がいる。 	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">△</p>	<p>おさえていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りの場で、児童の自己評価と次への見通しを適切に行うことができるよう、個別指導を併行する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 ・題材に対して、つくり方を理解し、創造的な作品をつくらうとしている。 ●思考・判断・表現 ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・色や形に関心をもち、粘り強く取り組む児童が多い。 	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">△</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発想が広がるような題材を準備し、取り組ませる。 ・作品のめあてを意識させ、それにあつた振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が興味をもち、意欲的に取り組み、深く追究できる題材を用意する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 ・ルールを守り、安全に気を付けながら、友達と協力して運動に取り組むことができる。 ・これまでの経験から「できる・できない」を自分で判断してしまうことがある。 ●思考・判断・表現 ・友達と協力して取り組むなかで上達したり成功したりする経験を積むことができた。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・自分のレベルアップやチームの作戦の達成度に注力して、技能に対して思考や判断を活用しながら、よりよくしていこうとする姿勢がみられた。 	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">△</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもつ児童に対しては、自己肯定感がもてるように、スモールステップで目標をもたせ、本日の達成度を振り返るようにする。 ・毎授業ごとに振り返りカードを記入し、項目や本時のめあてに注目させて、次時の目標をもたせていく。